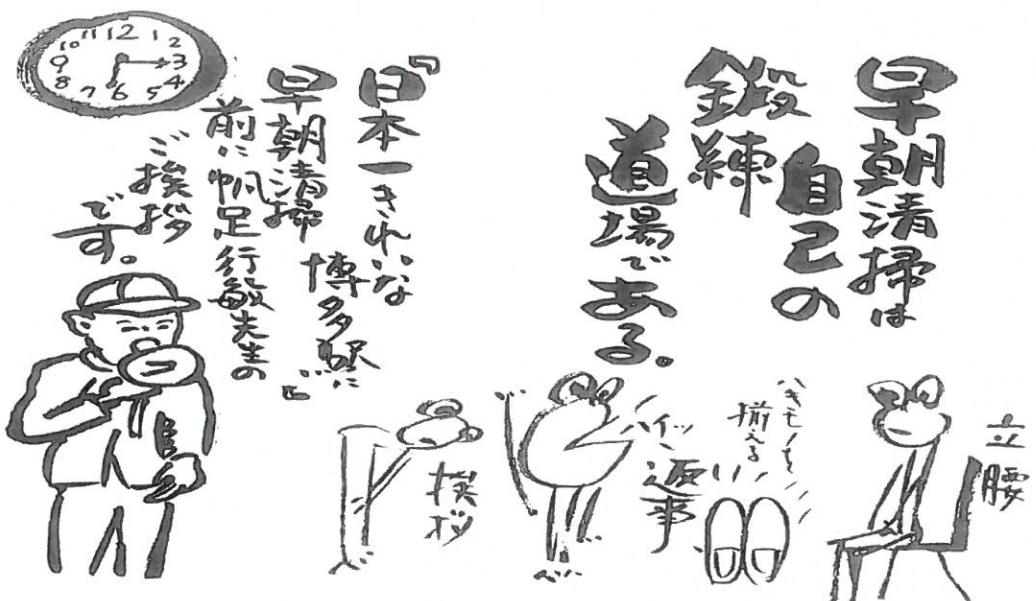




# かかぎ



# 「独立自尊是修身」

宇美町 下垣内 辰雄(八十四歳)

一ドルが三百六十円の頃の遠い昔の話です。運よく念願のアメリカ留学が叶いミネソタ州立大学で勉強する機会が与えられました。往復の渡航旅費が只ですかから贅沢は言えませんが、羽田発のその飛行機は元アメリカ空軍の輸送機を改良したものでした。予定の出発時間を数時間遅れてやつと飛び立ちました。

初めて乗る飛行機はどんなにがたびし揺れようと興味津々で、窓に額をすりつけて外の景色を眺めました。真下にじゅうたんを敷き詰めたような雲の上を飛行していました。太平洋上の天空にはきれいなお月様が煌々と輝いていました。

暫くしてウエーキ島に到着しました。ここは太平洋戦争での激戦地でした。燃料を補給して飛び立ちました。そしてハワイに立ち寄り、ここでも同じよう燃料を補給し、飛行機の整備をしましたが、その間、機内から外に出ることはできませんでした。次はサンフランシスコの対岸のオークランドに着き円をドルに換え必要な入国手続きをして初めてのアメリカ大陸の土を踏みました。福沢諭吉は一八六〇年(万延元年)二月にサンフランシスコに上陸をして大歓迎を受けたと、彼の著作「福翁自伝」に記されていたのをふつと思い出しました。あれから百年の時の流れの後に、自分がこの地に立っていると想い、暫し感慨に耽りました。

再び空に飛び立ちニューヨークのケネディ空港に到着し、市内のヒルトンホテルに止宿しました。ほとんど人通りはありません。そこ年の頃八十の半ばぐらいと思われる男性が左手に紙袋を下げてやつてきました。右手を袋に突っ込み、パンくずを掴みながらまきました。鳩がパンくずを目掛けて群がつて来ま

した。彼はひいきの鳩に名前を付けているようでその名前を呼びながら「早くお食べ」と言い、他の鳩が横から餌をついばもうとする

と、「これこれ、お前にやるんじやないぞ」と、言つていました。

私は彼に近づき挨拶して話しかけました。「毎朝、鳩に餌をやりに来ているのですか。この近くに住んでいるのですか」と尋ねると、「ああ、そうだよ。天気のいい日は毎朝来てるよ」と、答えました。私が日本から英語を勉強するためにやつて来たこと。家族のこと、日本のこと等話しました。彼は私に親しみを感じたのか自身のこと、彼の家族のことについて語ってくれました。

自分は妻に先立たれて自分一人で住んでいます。二人の子供はそれぞれ家族を持っており、一人は遠くに住んでいるが、もう一人は割と近くに住んでいること等々話してくれました。

私は彼に一人で住んでいて寂しくないですか、と訊きました。すると彼は暫らく目を開じていましたが、おもむろに口を開きました。そして「うん、寂しいよ。でも僕には自由があるからね」と言いました。

かつて私が勤めていた学校の校長室の壁面に福沢諭吉先生の墨痕鮮やかな書が額に納められています。それには「独立自尊是修身」とあります。これを私なりに次のように解釈しています。

「人に頼らないで独立独歩、自分の脚でしっかりと歩きましょう。自分を変に下げずまないで自分の人格を尊重しましょう。このことが自分の人格形成に大事なことですよ」と。

大分県中津市の福沢先生の旧宅の前庭にある土蔵、「福沢諭吉記念館」の入り口から入った左側に掲げられている墨痕鮮やかな「独立自尊是修身」の本物の書

を見た時の喜びと感動は筆紙に尽くしがたいものがあります。

## 森信三先生のことば

天下第一等の師につきてこそ  
人間も真に生き甲斐

ありといふべし

出来るだけ多くの書を求めて、

多くの書を読むべし。  
われら常人にあつては、

人生を新しく洗済たらしむるは、  
まず読書から始めるに如くはなし。

一粒のけし粒だにもこもらへる

命貴ふと思うこのごろ

不尽

活動状況 中洲早朝清掃 28年2月第1週



活動状況 中洲早朝清掃 28年2月第3週

